

# 令和5年度 長門市立仙崎小学校 研究概要

## 1 研究主題

### 主体的に考える子どもの育成 ～ 学びをつなげる授業づくりを通して ～

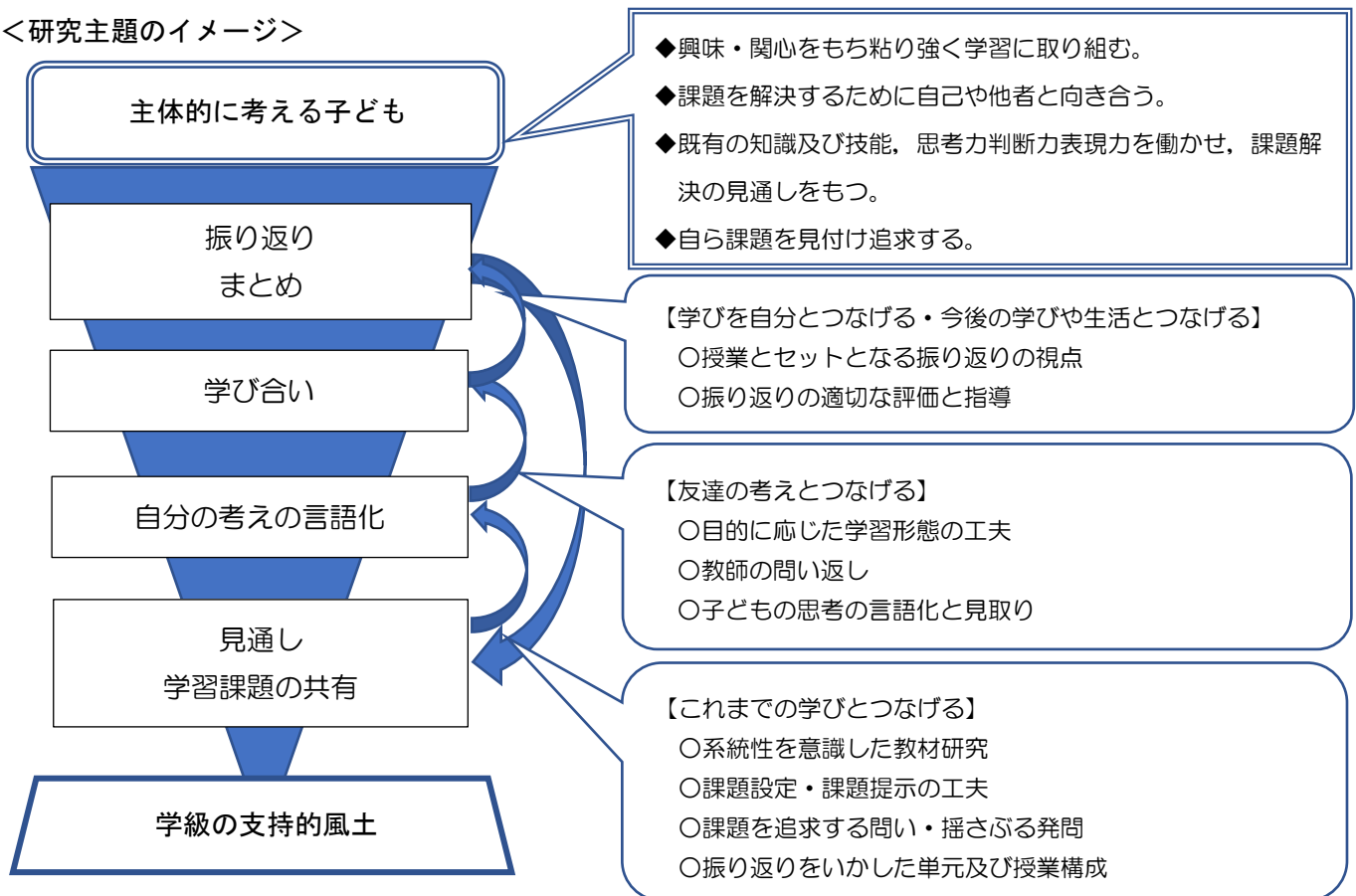
## 2 主題設定の理由

グローバル化や情報化の進行により、子どもたちを取り巻く環境は日々、激しく変化している。そうした変化の激しい時代を生き抜く上で、児童が、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。

本校では、令和2年度より「主体的に表現できる子どもの育成～問いや思いが膨らむ・つながる対話的な学びと振り返り～」を研究主題とし、①対話が生まれる問い・学習課題の工夫 ②対話的な学びづくり ③授業と授業をつなぐ振り返りの工夫に焦点を当てて研究を進めてきた。振り返りの時間を確実に設定し、視点を明確にすることで、自己の学びをじっくり振り返る姿が見られるようになった。しかし、自己の学び方を自覚する振り返りや、次時につながる振り返りについては、さらに研究する必要があると感じ、令和3年度は、「主体的に表現できる子どもの育成～問いや思いが膨らむ・つながる対話的な学びと振り返りの充実と活用～」を研究主題とし、「深い学び」に向けて振り返りの内容を充実させることに視点を置いて研究を進めてきた。どんな振り返りを児童が書けるとよいかイメージして授業づくりをすることで、児童が主体となる授業や、振り返りをいかした導入・課題提示などを仕組むことにつながってきた。しかし、授業での学びとセットとなる振り返りの視点を工夫し、自分の考えがどのように変わったのか、何がきっかけで解決の糸口をつかんだのかなど、児童が学び方を自覚するということについては、課題が残った。また、児童の学びに向かう力（主体的に学習に取り組む態度）をいかにして見取り、評価するかということについても研究が必要であることがわかった。そこで、令和4年度は、研究主題を「主体的に表現できる子どもの育成～振り返りの充実と活用～」とし、児童が本時での学びを自覚し、教師も児童の学びのようすを見取れるよう、振り返りの視点を工夫することを中心に研究に取り組んできた。授業を通して身に付けたり気付かせたりしたいことに合わせて、振り返りの方法や視点を工夫したことで、振り返りをいかして単元や次時の授業を構成することができた。また、よい振り返りを紹介するなど、振り返りのしかたを指導することで、内容の質を向上させることができた。一方で、「主体的に学習に取り組む態度」の見取りについては、授業で身に付けさせたい資質・能力と振り返りの方法・内容が合致していない、児童自身が自己の学びや学びの過程を十分に振り返ることができないといった課題が見られた。適切に評価するためには、やはり、授業での学びとセットになった振り返りについて、さらに研究を深めるとともに、児童の学びをつなげる力の育成にも取り組んでいく必要があることが分かった。そこで、本年度は、研究主題を「主体的に考える子どもの育成 ～学びをつなげる授業づくりを通して～」とした。

学習指導要領では、算数科において、数学的な見方・考え方を働かせながら、数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能の習得、数学的な思考力・判断力・表現力、学んだ事柄を生活や学習にいかそうとする態度等を育成することが示されている。それらの育成には、児童の課題に対して主体的に考える力が不可欠である。児童が主体的に考えるためには、身に付けた知識及び技能や、思考力・判断力・表現力をどのように働かせていくのが重要であり、自己の学びを新たな学びや生活に結び付ける力が大切であると考えた。よって、学びをつなげる授業づくりを通して、主体的に考える子どもの育成をめざす。

## <研究主題のイメージ>



## 2 研究仮説

（算数科において、）児童と学びをつなぐための手立てを取り入れた授業づくりを行うことによって、児童の学びに向かう力が向上し、主体的に考える児童を育成することができるだろう。

## 3 研究内容

- ① 学びをつなぐ手立て
  - 学習内容の系統性の明確化
  - 単元または一単位時間の目標に応じた対象の設定
  - 学びがにつながる課題の設定・しかけ
- ② 自己の学びやその過程を自覚することのできる振り返りの工夫
  - 計画的な振り返りの実施
  - 振り返りの質の向上に向けた適切な評価と指導
  - 振り返りを活用した授業づくり

## 4 研究の視点

ユニットA	図と式を関連付けて、言葉を交えながら説明することを通して、問題場面をイメージして、思考の過程を表現する力を育てる。
ユニットB	これまでの学びと課題をつなぐ授業づくりを通して、自分の考えをもつことができる子どもを育てる。
ユニットC	言葉と絵図と式をつなぎ、イメージをもって課題解決に取り組みさせることで、自分の考えを表現できる力を育てる。

## 5 研究方法

- (1) 研究の場
  - 全体研修  
年間3回の校内研究会をもち、全体授業研究（ユニット別）を行う。
  - ユニット研究、各学級の実践的研究
    - ・研究課題の解明や指導案の作成、検討
    - ・年間1人1授業研究を行い、各ユニットで協議を行う。
    - ・日々の実践研究の情報交換や検討等、研究及び実践活動を深める場・・・“フラット研修”

- 研究推進委員会
  - ・研究の企画，推進，運営を行う。

(2) 授業研究について

① 全校授業研究

ア 研究過程

- ・ユニットの研究課題解決のための授業を行い，当日に全体研究協議会をもつ。
- 2，3学期に自主的な校内研究会を各1回設け，その場で全校授業研究を行う。
- ・授業提供は，原則各ユニット1学級とする。
- ・指導案は，ユニットで検討を重ねて原案を作る。
- ・オリエンテーションは，指導案をもとに，授業前2週間程度の適切な日に行う。

イ 授業提供学年

2学期	5-1	澤田学級
2学期	6-2	佐々木学級
3学期	3-2	山本学級

ウ 研究協議会のもち方

- ・司会は，原則的に研修主任が行う。研修主任不在の時は，研究推進委員がこの任にあたる。
- ・授業記録，写真記録は当該ユニットで行う。
- ・内容と方法
  - 【授業者及び授業提供学年から】
  - 《ユニットの取組》
  - ユニットの研究課題や研究内容について話す。
  - 《本時の授業について》
  - 研究仮説に基づく本時の視点（＝学びをつなげるための手立て）について話す。
  - 【ワークショップによる協議】
  - 本時の視点について，個人が成果や課題，改善策をもち寄り，各ユニットで協議する。各ユニットの協議内容を発表し，研修主任を中心に全体の場で集約する。

エ 指導案の形式（別紙）

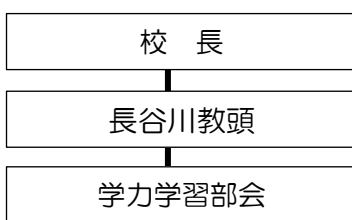
② ユニットでの授業研究

ア 研究過程

各ユニットの研究課題解決のための授業を年間1人1回行い，当日または近接日にユニットで研究協議会をもつ。研究協議会の企画・運営については，研究推進委員を中心に行う。

イ 指導案の形式（別紙）

6 研究組織



ユニットA	木原	山本歩	○的場	清水	黒瀬	田村	阿波
ユニットB	佐々木	柴田	山本昌	宇野	木脇	山下久	○丸橋
ユニットC	澤田	○鈴木	村岡	木村	榎本	中野	長谷川

7 校内研究年間計画

月	日	研修内容	備考
4月	12日(水)	第1回校内研修会 ・学習規律，研究の方向性	
4月	18日(火)	第2回校内研修会 全国学力学習状況調査および山口県学力学習状況定着問題（4月）の採点と分析	

5月	24日(水)	<b>第3回校内研修会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究主題, 研究内容, 研究方法</li> <li>指導案形式の提案</li> <li>ユニットの研究の視点の検討</li> <li>授業者の決定</li> </ul>	5月中:一人一授業の時期と単元の決定
6月	21日(水)	<b>第4回校内研修会</b> <b>校内授業研究(教材研究)</b> 教科【算数】:5年生教材使用	授業評価①
8月	10日(水)	<b>第5回校内研修会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>1学期の研修の評価と振り返り</li> <li>2学期の計画</li> </ul>	
	24日(月)	<b>第6回校内研修会</b> ・・・各種研修	
9月	13日(水)	<b>第7回校内研修会</b> <b>校内授業研究</b> 授業者(5-1) 澤田 ちひろ 教科【算数】	参観日:保護者による授業評価
10月	18日(水)	<b>第8回校内研修会</b> 県学力定着状況確認問題の採点と考察	授業評価②
11月	22日(水)	<b>第9回校内研修会</b> <b>校内授業研究</b> 授業者(6-2) 佐々木 洋輔 教科【算数】	授業評価③
12月	冬休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期の研修の評価と振り返り</li> <li>3学期の計画</li> </ul>	
1月	24日(水)	<b>第10回校内研修会</b> <b>校内授業研究</b> 授業者(3-2) 山本 歩 教科【算数】	授業評価④
2月	7日(水)	<b>第11回校内研修会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究紀要作成について</li> <li>研究の成果と課題</li> </ul>	授業評価⑤
	21日(水)	<b>第12回校内研修会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究のまとめ</li> <li>来年度の方向性</li> </ul>	